



発行日 令和元年（2019年）5月28日

制作 大河ドラマ「麒麟がくる」亀岡市実行委員会
ふるさと亀岡ガイドの会（おもてなし部会）

編集委員 ふるさと亀岡ガイドの会
（井上市朗、牧田浩、小林晴夫、森幸雄、松尾清嗣）

デザイン メディアクローバー

発行 大河ドラマ「麒麟がくる」亀岡市実行委員会
事務局：亀岡市 産業観光部 光秀大河推進課
〒621-8501 京都府亀岡市安町野々神8番地
TEL：0771-25-5093（直通）
E-mail：taiga-project@city.kameoka.lg.jp

参考資料 「明智光秀」高柳光寿 著
「新修亀岡市史」
2018年（平成30年）6月13日読売新聞朝刊
「丹後偉人ブックvol.1戦国またのぞき」
「明智光秀のすべて」二木謙一 編
「明智城と明智光秀」可見市観光協会

協力（五十音順）

愛宕神社（京都市）
大本本部（亀岡市）
亀岡市観光協会
亀岡商工会議所
亀岡市文化資料館
公益財団法人禅文化研究所
谷性寺（亀岡市）
国立公文書館
御霊神社（福知山市）

西教寺（大津市）
大東急記念文庫
長興寺（豊田市）
東京都立図書館
如意寺（亀岡市）
福知山AtoZ研究所
福知山観光協会
本徳寺（岸和田市）
麟祥院（東京都文京区）

明智光秀公 早わかり

AtoZ
@かめおか

令和元年
MAY 2019

5

京都・亀岡

今、最初から最後まで

明智光秀公

が**熱い**



Message

明智光秀公は、京都・亀岡のまちの礎を築いた武将であり、旧名「亀山」の名付け親であるともいわれています。市内には光秀公ゆかりの地が数多く存在し、まちを歩けば今でも光秀公の生きた戦国時代を身近に感じることができます。

本能寺の変で主君・織田信長を討ったことから、光秀公には「逆臣」や「三日天下」などのマイナスのイメージが長らく付きまとってきましたが、近年研究が進むなかで、善政を行い、教養豊かで文武に優れ、家族や部下、そして領民を大切にした「知将」であったことが明らかになりつつあります。

この冊子では、AからZの26の項目を通して、光秀公の隠された素顔に迫ります。ぜひ謎多き武将・明智光秀公と、彼が治めた丹波亀山について知識を深めていただき、その魅力を感じてください。

そして大河ドラマ「麒麟がくる」および「光秀公のまち亀岡」を、皆様のでよりいっそう盛り上げてくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

大河ドラマ「麒麟がくる」亀岡市実行委員会

会長 川勝 啓史

明智光秀公略年表

西暦	和暦	
1528	享禄元	現在の岐阜県可児市（旧明智荘）明智城にて生まれる 【明智軍記】
1556	弘治2	美濃国斎藤道三、義龍父子の争い（明智は道三側）義龍に叔父・明智光安が敗れると、明智城を出て諸国遍歴、後に越前朝倉氏のもとで知行地を拝領する 【明智軍記】
1565	永禄8	室町幕府13代将軍足利義輝暗殺（永禄の政変）後、義輝の弟・義昭が若狭国へ（その後、義昭と出会う）美濃に帰国、織田信長に仕える 【明智軍記】
1568	永禄11	信長と将軍義昭との間を仲介 【細川家記】 *光秀公41歳
1571	元亀2	比叡山焼討ちの後、信長より近江志賀郡を与えられる 【信長公記】 義昭に致仕（暇）を願い出る
1572	元亀3	坂本城築城
1575	天正3	信長の命により丹波国攻略へ 【明智軍記】 信長の推挙により「惟任」の姓と「日向守」を与えられる 【信長公記】
1576	天正4	正室熙（子）、坂本城にて病死
1577	天正5	丹波亀山城築城を開始
1578	天正6	娘玉（ガラシャ）、細川忠興に典入れ 【細川家記】
1579	天正7	丹波国平定 *光秀公52歳
1581	天正9	信長の御馬揃え（軍事パレード）をとり仕切る 【信長公記】 家中軍法十八ヶ条を定める
1582	天正10	愛宕山に参詣しくじを引く（5月27日）翌28日百韻連歌を興行し、亀山から出陣 【信長公記】 本能寺の変（6月2日早朝） 細川家に支援要請（6月9日） 山崎の合戦（6月13日）にて秀吉に惨敗、小栗栖にて横死 *光秀公55歳

AtoZ Contents

Aisaika 愛妻家	
Bunbu-ryoudou 文武両道	④
Chisui-kouji 治水工事	
Design まちをデザイン	
Economy 領地経営	⑤
Fuku 福（春日局）	
Giri-ninjou 義理人情 仇を見て返す	
Hosokawa 細川玉（ガラシャ）	⑥
I cyou お手植えの大イチョウの木	
Jitsuryoku-syugi 実力（能力）主義	
Kokusyouji 谷性寺	⑦
Line 惣構（堀）	
Mascot マスコットキャラクター（明智かめまる）	
Nakanunara 橋かめなら 放してやるラホトキス	⑧
Ohomoto 大本（おほもと）	
Partner パートナー（明智秀満、斎藤利三）	
Question 謎？本能寺の変	⑨
Rule 家中軍法	
Sakamotojou 坂本城	
Toki ときは今…	⑩
Uno-bungonokami 宇野豊後守秀満	
Victory 三日天下（新語創出!）	
Wa 和をもって…	⑪
X-day 1582.6.2（天正10年6月2日）	
Yo 天下（世）の面目をほどこし候	
Zone 丹波亀山城初代城主（独自のまちづくり）	⑫
番外編 昔亀山、今亀岡	

A isaika 愛妻家



光秀公は、愛妻家で知られています。正室熙（子）一筋で、戦国武将では珍しく側室を持たなかったといえます。光秀公が朝倉義景に仕えるようになったある日、連歌の会を催し朝倉の家臣をもてなすことに。苦しい台所事情のなか、熙（子）は自分の黒髪を売って、宴会のお金を用立てました。そんな愛妻を丹波攻めの最中に亡くしますが、当時の慣例にならわず妻の葬送に参列しました。妻への愛の深さを感じます。

B unbu-ryoudou 文武両道



生国美濃を離れた光秀公は、浪人中、越前・朝倉氏の目に留まり、その後鉄砲の腕を買われ朝倉義景に仕えます。また、この地で足利義昭にも出会います。やがて朝倉の元を去り信長の家臣となり、公家との折衝役を務める中で、足利義昭、細川藤孝（幽斎）ら文化人との交流から、和歌、茶の湯の道を究めました。連歌師・里村紹巴らを招き、たびたび連歌会を催したことはよく知られています。

C hisui-kouji 治水工事



光秀公は、丹波平定に際し、亀山城を拠点としたまちづくりに着手。当時よく氾濫する保津川から亀山の城下町を守るために、河川敷にサイカチの木を植え、治水工事をしたといわれています。サイカチの木は、土手に良く根を張り、また「災勝」で災害に勝つとも、「催勝」で勝ちを催すともいわれる幸先のよい木なので、ゲンを担いだのでは？ 福知山の治水工事では、「明智敷」が有名です。

D esign まちを デザイン



光秀公は、その書状から「亀山」の名付け親である、とされています。村々を集めて家々を連担させ、城下町を形成。武士を城下に集住させ、プロの兵士として一年中フルに動員できるようにしようと考えました。その武士たちが生活に必要な用具を供給する、職人や商人たちも住まわせ経済を活性化させることで、都市としての実力をつけることを目指しました。このように、現在の「亀岡（城下町）」の原型をデザインしたといわれています。

E conomy 領地経営



光秀公は、領地を「経営」するという感覚を持った武将であったといわれています。その土地のことをよく知る「国人衆」を家臣として取り立て、代官に任用するという新しい人材活用法を取り入れたり、洛中や、領地になった丹波の地に対して地子銭（土地税、住宅税に相当）を永代免除するなど、卓越した経営手腕で、名君として領民から慕われました。毎年5月3日に行われる「亀岡光秀まつり」は、この光秀公の遺徳を偲び、市民あげて顕彰する市内最大規模の春まつりです。

Fuku 福(春日局)



春日局は、安土桃山時代から江戸時代前期の女性で、本名は斎藤福。「春日局」は朝廷から賜った称号です。江戸幕府第3代将軍・徳川家光の乳母として知られており、江戸城大奥の礎を築くとともに、家光を支えた「鼎（かなえ）の脚」の一人に数えられています。江戸初期における女性としては随一の存在であり、徳川政権の安定に大いに貢献しました。父は光秀公の重臣・斎藤利三で、明智家筆頭家老として重用されていました。

Giri-ninjou

義理人情
(仇を恩で返す)



光秀公は、細川藤孝(幽斎)の家臣でしたが、細川家の家老らが「悪しくあたり」いじめたので、こらえきれず信長に直接仕えるようになり、その後出世をします。光秀公は、同家家老の松井佐渡に「あなたに気に入られなかったから立身できた。仇を恩で返したい」といったら、すかさず松井は「では、娘子(玉)を当家の与一郎(忠興)に」といい、玉は細川家に嫁入りしたというエピソードがあります。

Hosokawa

細川玉
(ガラシャ)



天正6年(1578)8月、光秀公の盟友・細川藤孝(幽斎)の嫡男忠興と勝龍寺城(長岡京市)で結婚。世紀の美男美女カップルの誕生も束の間、本能寺の変が起こり、玉は丹後の山中、味土野に幽閉されました。この孤独な二年の間に、救いを求めてキリスト教に傾倒したようです。文化人であり甲冑デザイナーとしても有名な忠興が相当なやきもち妬きだったので、妻としては大変だったようです。

Icyou

お手植えの
大イチョウの木



丹波亀山城天守跡近くには、光秀公お手植えといわれる大イチョウが現存していますが、江戸中期に台風で倒れ、跡継ぎで若木が植えられたとの記録が残っています。大本陣の際も、当時の町民の強い願いで、この木は唯一残ったといわれています。イチョウの木は燃えにくく、銀杏は食料にもなることから、城内に植えられることは多いようです。また、丹波亀山城跡には、昔は焔硝蔵(火薬庫)だったといわれる中の島があり、現在は多くの万葉植物が咲き誇る花明山(かめやま)植物園に。新種の「このはな桜」もここで発見されました。なお、大イチョウ周辺は、禁足地につき立ち入りはできません。

Jitsuryoku-syugi

実力(能力)
主義



光秀公は、信長同様「実力」を重視し、身分家柄に関係なく個人の持つ能力を最大限に活かす人心掌握術に長けていたといわれています。家臣の心情を深く理解し感謝し、決して裏切らなかったといえます。家臣に対する労いは、合戦で討ち死にした家臣を列記し、近江国の西教寺に供養米を寄進しているのをはじめ、合戦で負傷した家臣に対する疵養生の見舞いの書状がいくつも残っていることから、家来思いの光秀像が伝わってきます。

Kokusyouji

谷性寺



亀岡市宮前町猪倉にある、清瀧山谷性寺は、通称「光秀寺」と呼ばれ、境内には「光秀公首塚」があります。光秀公は、この寺の本尊不動明王を篤く信仰し、本能寺攻めを決意するや、「一殺多生の降魔の剣を授け給え」と誓願を立て、その功德を得て本懐を遂げました。小栗栖にて、家来の溝尾庄兵衛は光秀公を介錯しその首を近臣に託し谷性寺の不動明王のそばに手厚く葬るように命じた、と伝わっています。

Line

惣構(堀)



亀山の北側は湿地帯でしたが、南側は岩盤が固く、敵からの防御のため、堀と土塁を巡らす必要がありました。惣堀と土塁のセットを「惣構」といいます。徳川時代には、天下普請(国家プロジェクト)により、天守、石垣とともに三重の堀(内堀、外堀、惣堀)が整備され、今の「城下町」の原型が完成しました。

Mascot

マスコット
キャラクター
「明智かめまる」



天正元年（1573）10月23日丹波亀山で生まれた、心優しい男の子。天正6年（1578）ごろ、光秀公によって築城された丹波亀山城の堀に、光秀公の娘「玉子」が誤って落ちて溺れたところを、堀に住んでいた「亀」が助けました。光秀公は、たいそう感謝してその「亀」を家来にし、「明智かめまる」と名付けてとても可愛がりました。城主亡き今も明智かめまるは、甲羅を兜に日々武道に励み、丹波亀山城跡を守っています。平成23年（2011）5月3日晴れて亀岡市民になりました！

Nakanunara

鳴かぬなら
放してやろう
ホトトギス



「鳴かぬなら 殺してしまえ ホトトギス」（織田信長）
「鳴かぬなら 鳴かせてみせよう ホトトギス」（豊臣秀吉）
「鳴かぬなら 鳴くまで待とう ホトトギス」（徳川家康）と、戦国武将の性格を言い表した、狂歌として有名な3句。新渡戸稲造の歴史的名著『武士道』に出てきます。さて、温厚で心優しい光秀公なら「鳴かぬなら 放してやろう ホトトギス」と詠んだのでは？

Ohomoto

大本
（おほもと）



明治25年（1892）、綾部に開教した神道系教団で、亀岡出身の出口王仁三郎は教祖の一人。王仁三郎は大正8年（1919）、亀山城址を入手、聖地・天恩郷（てんおんきょう）を造営し、石垣も復元しました。その後国内外に発展した大本を昭和10年（1935）12月8日、時の政府は弾圧、すべての施設が破壊されました。戦後、裁判で無罪判決が確定し、城址は大本に返還され、石垣は再び復元されました。

Partner

パートナー
（明智秀満、斎藤利三）



光秀公の良きパートナーとして、長女の婿・明智秀満と、美濃時代からの腹心・斎藤利三は特筆すべき人物です。明智秀満は、丹波平定後、福知山城の城代となり、本能寺の変では先鋒となって本能寺を襲撃。山崎の合戦後の「湖水渡り」はあまりにも有名です。また、斎藤利三は秀満と並ぶ筆頭家老で、天正7年（1579）黒井城（兵庫県丹波市）陥落後、城代として氷上郡統治にあたりました。

Question

謎？
本能寺の変



日本史上最大の謎、「本能寺の変」の動機は何か？織田軍団のナンバー2まで上り詰め、信長に対する尊崇の気持ちも強かった光秀公であるのに、なぜ謀反を？古くは怨恨説で片付けられてきましたが、近年、野望説、前途不安説、突発説、室町幕府再興説、暴君討伐説、信長自作自演自爆説、黒幕説など100近くにのぼります。光秀公は、この謎とされる内の何かに突き動かされるように、丹波亀山城で数日にわたる出陣準備の後に、最終的に決断を下しました。

Rule

家中軍法



光秀公は、いち早く「家中軍法」なるものを確立し軍団の秩序と規律を明確にしたことで有名。明智光秀家中軍法は天正9年（1581）6月2日付けで発布され、全十八ヶ条から成り立っています。一条から七条は戦での行動は命令に従うこと、武器や指物・幟の置き場所や兵士の兵糧も定めた器で配給するなど軍の規律を詳細に定めています。八条から十八条は武将の石高に応じた軍役を明確にしており、先駆的事例であったといえます。

Sakamotojou

坂本城



信長と確執のあった浅井長政・朝倉義景の連合軍が、比叡山に立て籠もったことから、討伐を命じられた光秀公は武功を立て、恩賞に坂本に築城を許されます。

家臣団の中で「途中入社」でありながら、「一国一城の主」第一号。坂本城は、比叡山の監視と琵琶湖の制海権を担った重要な城であり、家族の住むマイホームでもありました。

Toki

ときは今…



天正10年(1582)5月27日、光秀公は、亀山城から今の「明智越え」を通り、戦勝祈願のために愛宕山に向かいました。翌28日には、山上の愛宕神社で里村紹巴らと連歌会「愛宕百韻」を催します。その光秀公の発句が、有名な「ときは今 天が下しる 五月哉」。この句は、「天下取り」を暗示させる句として詠み替えられたもの、とも伝わります。実は「ときは今 天が下なる 五月哉」がオリジナル?

Uno-bungonokami

宇野豊後守秀清



丹波国山本地域の領主・宇野豊後守秀清は、天正7年(1579)光秀公の旗下に入り、丹波平定の案内役を務めます。しかし、天正10年(1582)光秀公が信長への逆心の企てであることを知り、諫めるも聞き入れられず、従えば逆臣の汚名を受け祖先に対し不孝の儀となるを以って、天正10年5月5日宇野氏直系5名諫死、と伝わります。本能寺攻めを止めよ、と光秀公を諫めた、唯一の人物であるといわれています。(写真は宇野氏ゆかりの如意寺)

Victory

三日天下 (新語創出!)



光秀公は、本能寺攻めで天下を取りますが、直後の山崎の合戦で羽柴秀吉に敗れ、極めて短期間の天下人だったことから「三日天下」と揶揄されました。この戦いで、明智・羽柴双方から加勢を依頼された大和の大名・筒井順慶は、一度は明智側に従って山崎の南方にある洞ヶ峠まで兵を進めながらも、最終的にはどちらに付くか日和見したといわれることから、有利な方に付こうと様子を見ることを「洞ヶ峠」といいます。また、勝負の分かれ目をいう「天王山」の言葉も、この戦いから生まれたといわれています。(写真は、光秀公最期の地、山科小栗栖の明智藪)

Wa

和をもつて…



光秀公は、若年の時から諸国を放浪、種々の武将に仕え、辛苦を舐め尽くした人生を送り人間性を磨きました。

光秀家中軍法に記述されているように、誰もが納得出来る内容であり、平等に扱うことを基本として和を保ったと考えられます。

軍法の末尾にも他の織田軍団との諍いは強く戒めています。特に和を重んじ、戦でも外交でも、根回しを重視したことが伺えます。

X-day

1582. 6. 2 (天正10年6月2日)



光秀公は、主君信長から、中国の毛利氏と交戦中の秀吉への応援命令を受け、丹波亀山城に兵13000を集結させました。

天正10月(1582)年6月1日夜、丹波亀山城より、その軍勢を率いて、京都に向かいます。

翌2日の未明、老ノ坂峠を越えた光秀公は、「敵は本能寺にあり」と号令を發し、決行の時を迎えます。天下統一を目前にした信長は、桔梗の紋を見て「是非に及ばず」と、熱炎の中でその生涯を閉じました。

Y^o 天下(世)の 面目をほどこし候



天正3年(1575)、光秀公は、信長から細川藤孝(幽斎)と筒井順慶を与力として「丹波を平定せよ」と下命されます。丹波は、足利尊氏が鎌倉幕府打倒の旗揚げをした時から味方についた国人衆の所領が多くあり、足利家の直臣との感覚が強い土地柄。そのため義昭將軍と信長が決裂した後、信長は敵であるとみなしていました。義で働く者は利では傾かず調略は至難、一筋縄では事は運ばないと、信長は長期戦を覚悟していたため、5年間で平定した光秀公を「惟任日向守働き、天下面目をほどこし候」と大絶賛したといわれています。

Z^{one} 丹波亀山城初代城主 (独自のまちづくり)



光秀公は、天正5年(1577)から亀山城の築城を始めました。それまでの丹波の城とはちがう「平山城」にしたことは、軍事拠点でありながら経済拠点を意識したまちづくりを感じさせます。惣堀を巡らし、城下全体を取り囲み、山陰道をおさえ、京都へのルートも完備。城下の暮らしを大事に考えたまちづくりに主眼が置かれたのではないのでしょうか。また、城づくりが得意な光秀公は、亀山城以外にも宮津城など多くの築城に関わりました。

番外編 昔亀山、今亀岡



亀山の名付け親は、光秀公といわれています。以来290年余り「亀山」を名乗ってきましたが、ついに名称変更の時が訪れます。時は明治2年(1869)、版籍奉還が行われた6月、亀山藩最後の殿様・松平信正は、新政府に東京へ呼ばれ知藩事に任命されます。その時、これより「亀岡」と名乗るように達しがありました。改称の確固たる理由はわかりませんが、伊勢亀山(現三重県亀山市)と混同しないためでありました。また、戊辰戦争が起こり丹波亀山藩は譜代大名として幕府勢力を担っていたこと、さらに石高の違いを挙げられたともいわれています。(亀山城の古写真は明治5年美田村顕教氏が撮影)

丹波亀山城と大本

大本が丹波亀山城址を入手した大正8年(1919)、城址は荒れ果てていました。

城の再建を夢見ていた教祖・出口王仁三郎師は、大正9年6月13日、同敷地で地鎮祭を行い、整備作業に着手。土中の石を掘り起こして石垣を復元し、天恩郷を造営します。

しかし昭和10年(1935)、時の政府は大本を弾圧。再建した城址も破壊されてしまいます。

戦後、裁判で無罪が確定するも、大本は国家賠償を一切放棄し、破壊された石垣や建造物のすべてを自らの手で再建しました。苔むした美しい石垣は、光秀公と彼の生きた戦国時代、そして亀岡の歴史を今に伝えています。皆様ぜひお越しください。

[大本本部]



① 亀山城天守石垣



Photo Kameoka

② 明智光秀公像

丹波亀山城址および内堀跡(南郷池)を臨む南郷公園に、令和元年(2019)5月3日、多くの方々の寄付により明智光秀公像が建立されました。

この光秀公像は、本徳寺(大阪府岸和田市)所蔵の肖像画をもとに、亀岡市内在住の彫刻家・とーじ・まサトシ氏が制作。文武に優れ、家族や家臣、領民を大切にしたい知将・明智光秀公の人柄を表現した立像に、大地に豊かな恵みをもたらす亀岡特有の朝霧が配されています。光秀公は、これからも末永く亀岡のまちを見守ってくれることでしょう。



③ 城下町歴史街並み案内所



④ 城下町



⑤ 古世親水公園(外堀跡)